

**みやぎNPO夢ファンド (B) スタートアップ支援プログラム
平成19年度助成事業 最終報告書**

書式 4

平成20年4月9日

団体名 特定非営利活動法人 ふあるま・ねっと・みやぎ
事業名 「薬食ビジラン・P-net」のための基盤整備事業
連絡担当者お名前 (ふりがな) 富永 敦子 (とみながあつこ)
助成金を使って行った事業について、ご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)
この事業は、本法人が活動の一環としておこなう「薬食ビジラン・P-net 事業」を推進するための基盤整備として、以下の内容で実施されたものである。
目的： 1) 健康被害および経済被害に結びつくような、不適切な商品や表示などの情報を収集し、被害回避のための情報として発信する 2) 得られた情報を、必要に応じて行政、医療従事者、生活者に提供し、改善や予防に役立てる 3) 市民ボランティアを募り、不適切情報を見抜く知識や方法を学んでもらい、日常生活の中での具体的な事例を収集するとともに、周囲への波及効果をもねらう。
実施内容：保健的食品に関する実態調査
実施方法 1) 随時調査 対象：会員薬剤師および他の医療職 内容：薬事法、健康増進法等違反 (の疑い) 事例、健康被害 (の疑い) 事例収集 所定フォームにより事例発見時に随時報告 2) アンケートによる意識調査 対象：薬剤師 100 名 (仙台市内 薬局・薬店管理薬剤師) 医師 200 名 (仙台市内 病院・診療所内科医師) 調査内容：保健的食品 (健康食品、サプリメント、特定保健用食品、栄養機能食品など) についての認識と体験事例など 3) 調査項目等を決めた一斉調査 対象：一般ボランティア 30 名 調査対象：保健的食品 調査地域：仙台市および近郊 調査内容：健康増進法・薬事法違反が疑われる事例 (チラシや雑誌等の広告、食品のパッケージの宣伝表示、販売方法の不適切例) 調査結果及び解析：別添調査報告書による

今回の事業によって、団体の活動や地域社会にどのような成果・効果がありましたか。

本法人が会員の専門性を生かした社会貢献を実現していく上で、中心的な役割を果たすのが「薬食ビジランパーネット」と名付けられた情報収集システムであると考えます。このシステムは、保健的食品（健康に良いと期待して摂取される食品群の総称）による健康被害や疾病治療への影響を避けるために、不適切な情報や商品の流通状況に目を配り、広く有害事例等を収集して行政や社会にフィードバックする情報ネットワークをめざしている。

今回の事業においては、専門職（医師、薬剤師）に対する意識調査と一般生活者（ボランティア）による実態調査をおこなった。

医療職に対する調査では、回答者（医師）の半数が何らかの支障を体験している一方、保健的食品に潜む問題性を意識していない医師・薬剤師も多いことが分かった。このことから保健的食品についての正しい情報を提供すれば、より正確な実態把握ができるものと推察される。今回のアンケート調査は第一歩と考えているので、さらに情報交換などを進めて、医療職としての社会貢献を図っていきたいと考えている。

一般ボランティアによる保健的食品の実態調査では、事前研修で問題性やチェックポイントを学んでもらったこともあってか、しっかりとこちらの要求に応じてくれた。最初は戸惑いもあったようであるが、最終的に期待以上の熱心さで、調査への参加意義を感じてくれたようである。27名の参加者へのアンケートでは、保健的食品にひそむ問題性を認識したことで、大多数の方が、今回のような調査が「問題解決」にとって有効であると答えており、確実に周辺への波及効果が期待される結果となった。

今回の助成事業を行って見えてきた課題は何ですか。

また、その課題解決に向けて必要なものは何ですか。

今回の上記2つの調査事業では一定の評価すべき結果が得られたが、最大の課題は調査に参加する人の確保であった。

医療職対象のハガキアンケート調査では、回収率は20～25%にとどまったし、30名のボランティアを集めるのに苦労した。最大の原因は、本法人の活動がまだまだ認知されていないことがあげられると思う。

また、得られた情報をより多くの人に伝えるためのフィードバックの方法も課題のひとつと考えている。

今回の調査は予備的なモデル事業と捉えて実施したものであり、調査規模としては小さい。とくに一般ボランティアによる調査は今後重要になると思うが、調査の性格上即時的なボランティア募集では人的確保は難しい。今回の事前研修会のような学習会を広く開催してボランティア予備軍を養成しておくことが有効な方法と考えている。

今回の調査に関して、河北新報社が興味を持って新聞紙上に取り上げてくれたことは大きな力となった。行政やマスコミの協力を得るような働きかけも重要と考えている。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。
また、その際に必要なものは何ですか。

医薬品や保健的食品による健康被害を回避するためには、正し情報を一般生活者に伝えることが重要であるが、被害が起きても気づきにくい状況がある。健康被害あるいは病気治療上の弊害に気づきやすいのは医師、薬剤師などの医療職である。この点に関しては今後有効なネットワークを構築して情報の交換、共有をはかり、事例収集を進めていきたい。

一方、不適切な情報や商品がどのような形で生活者のところに届いているかも重要な問題である。実態を調査するためのボランティア養成を兼ねた学習会を県内各地に広げていきたいと考えている。

このような事業を展開していくためには開催費用やテキスト作成費用の問題は大きい。さらに各地域で参加者を募集する手段がネックとなる。この点については、行政やマスコミとの協働がぜひとも必要と考える。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部			
項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	200,000	200,000	
自己資金	50,000	50,000	
合計	250,000	250,000	

支出の部			
項目	予算（円）	決算（円）	備考
1. 事前研修会			
会場費	5,000	7,200	報告会分を含む
交通費	30,000	30,000	1,000 × 30
事務費	15,000	20,800	通信費、資料冊子
2. 調査費			
ボランティア交通費	90,000	81,000	3,000 × 27
医療職向けアンケート調査費	60,000	54,000	100 × 300 80 × 300
事務費	10,000	4,800	封筒、資料印刷

3. 集計解析費			
会場費	5,000	7,200	打合会、集計作業
事務費	35,000	45,000	資料印刷、報告書作成(200部)
合計	250,000	250,000	

寄付をいただいた方へのメッセージをどうぞ

本法人の活動の主要な事業である「薬食ビジラン・P-net」を実効性のあるものとして進める上で、今回の基本調査はぜひとも必要なものであり、助成をいただいたことでその第一歩となる結果を得ることができました。寄付という形で支援してくださった多くの皆さまに感謝申し上げますと共に、健康に関わる法人としての事業にしっかりと反映させていくことで、ご支援に応えたいと思っております。